

平成25年度 第4回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成26年2月4日（火）

【鉄矢会長】 平成25年度第4回小金井市立はけの森美術館の運営協議会を開会いたします。

本日、開会中の展覧会はありませんので、次第の1、今年度の事業について事務局から説明をお願いします。

【荒木学芸員】 一番上の、次第の次の関連で資料1として、本年度の事業についてということで、年度初めの4月から当館で開催する事業の説明でございます。今年の展覧会の関連企画、教育普及事業とその他とジャンル分けしています。表につきましては今年度上半期で、裏面に回りまして、前回の運営協議会が10月の一番下のコマにあります。10月29日に開催されました。それ以前の事業については既に報告済みということで、本日はそれ以降の11月以降現在までに開催した事業についてまず報告したいと思います。

まず、資料2が、前回の運営協議会以降に開催された展覧会と、及びその関連企画についてまとめてございます。

11月17日まで開催しておりました「岐阜県美術館蔵 コレなんだ？佐藤慶次郎の作った不思議なモノたち」、無事会期終了いたしました。入場者数は、開催日数が32日と短か目でしたけれども、入場者数は2,030人。特に最終日には200人を超える、無料観覧日以外の有料の開館日では開館以来最多の入場者数がありました。

この資料2の2ページ目から6ページまでは、現在この佐藤慶次郎展は、市町村立美術館活性化事業の共同巡回展ということで、開催した3館で現在報告書をつくっております。その制作中の報告書より一部抜粋しました。

2ページ目、3館全ての入場者数等、これは一見してわかりますけれども、特に当館に関しましては、入場者数はやや少な目ではありましたが、ただ、有料入場者数の率が一番高い、45.4%ですので、関係者以外の来館者が非常に多かったです。それと注目するところは図録の販売数です。当館で120冊を販売しまして、現在も通信販売の問い合わせが複数来ております。大変反応はよかった展覧会でありました。

その他、展覧会アドバイザーのコメントですとか、アンケートの結果を、資料に掲載しております。ごらんいただきまして、後ほどご意見、ご質問などございましたらよろしく

お願いします。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

何か佐藤慶次郎展についてご質問等ございましたら、ご質問でなくてもいいんですね、意見とか聞きたいこととか。

【村澤委員】 感想ですけれども、この図録の販売数が断トツで多いんですけれども、どういう方が買われたとかというのはわかりますか。小中学生ですかね。

【荒木学芸員】 いえ、むしろ、20代から三、四十代の若い層です。一昨年ですか、多摩美術大学美術館で佐藤慶次郎の没後初の回顧展が行われていたのもありまして、そちらを知っていて、こちらに見に来てくださった方がカタログを買ってくださったりもしました。多摩美術大学の展覧会のカタログは3,000円のかかなり重厚なカタログだったんですけれども、当館はDVDをつけて1,300円というかなり抑えた価格でした。ただ、ほかの2会場の地域では、あまりそういった1,000円台以上の書籍というのはあまりなじみがないということでしたが、東京ですと2,000円近い展覧会カタログというのはよくありますので、それに比べて手軽に購入していただけたというのが1つ考えられます。DVDがついていたということで、やはりお子さんが作品を見て、また見たいと言って保護者の方にせがんでいる姿を見ることはありました。

【鉄矢会長】 ほかにございますか。

【山村委員】 参考までに、1日平均63人ということなんですが、今までの展覧会の平均というか、大体どれぐらいここは入っているのか、聞きたいんですけれども。

【荒木学芸員】 これは特に学校、鑑賞教室、小学生の鑑賞教室がその会期中に含まれるかどうかで左右されると思いますが、大体企画展の際には、大体何校かは入りますので、ほかのこれまでの主な企画展と比べても大体平均は、そうですね、やはり40から60ぐらいの間で。

【山村委員】 40から60。

【荒木学芸員】 はい。所蔵作品展ですと、春は非常に平均人数が高く、それ以外の季節は少し少な目になっている、そういった傾向はあります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。ほかに何か。

続いて、ワークショップについて、事務局から説明をお願いいたします。

【荒木学芸員】 展覧会の関連企画のワークショップ。こちらは、佐藤慶次郎展のワークショップ、3回行ったうちの2回目です。写真の右端の方が佐藤慶次郎の作品制作協力

者で、この展覧会のアドバイザーにもなっていた石川喜一さん。そのご指導で佐藤慶次郎が作品に使った部品とほぼ同じものを使って工作を、動くオブジェをつくってみようというプログラムでした。当館の場合は、対象を「どなたでも」としたので、参加者が5歳から70代までと非常に幅広かったんですが、皆さん和気あいあいとお互いにつくった作品を見て、これ、おもしろいねって話し合いながら、こういうふうな動きもできるんだってというふうに話し合ったり参考にし合ったりしながら自由に楽しい工作をつくっていました。このときには、講師の石川さんのほかに佐藤慶次郎の奥様もいらっしやっていて、大変喜ばれていました。こんなおもしろいものができてくるなんてとか、大変喜ばれていました。

【鉄矢会長】 これ、動きはどういうイメージですか。ビーズが動くというんですか。

【荒木学芸員】 ビーズの間に磁石の粒が……、これですね。

【平岡委員】 これが磁石で、ビーズ同士で間をとめて、その間を下の電磁石の加減で。

【鉄矢会長】 行ったり来たり。

【平岡委員】 ここを往復するというような基本の動きです。

【鉄矢会長】 わかりました。

【荒木学芸員】 この写真の例ですと、この花を切ってるものですが、垂直に立てたその軸に花と磁石を挟むようにしていると、電気を通すと花が回りながら上下するという、そういう動きを、それも参加者が発見して、そしてまたそこからほかの参加者もまた別の動きを発見したりという形で、どんどん発展していくという、非常に皆さん時間を忘れて楽しんでいました。

この写真は最終日の11月17日に行われたワークショップ、「ライブ・ステレオ・スコープを作ろう」です。こちらはメディアアーティストのクワクボリョウタさんが講師でした。この講師のコーディネートや当日の運営の補助には、NPO法人アートフル・アクションが協力という形で入っていただきました。ちょうどこのときにクワクボさんがロシアでの展覧会、展示の関係でなかなか連絡がとれなかったりして大変だったんですけども、大変非常におもしろいテーマを持ってきていただきました。カメラ・オブスクーラと書いてあるように、カメラの基本原理を利用して、レンズのいろんな屈折と反射を応用して、ちっちゃい双眼鏡をつくるというものなんです。これはマーブルチョコレートのケースを使って、そこにレンズをはめ込んで、さらにスクリーン、幕に映像が映るスクリーンを張って、ちっちゃな双眼鏡をつくったんですが、こちらはわりと小さなものなんですけれど

も、最後、完成しますと、みんなで外の風景をのぞいていたんですが、これが物の凹凸が逆転して見えるという、そうした不思議、おもしろい視覚現象をつくり出すということで、なのでこうやってのぞいてみないと、写真を見ているだけですとなかなかわからないんですけれども。

【山村委員】　　そういうものだったんだ。このパンフレットを見ても何をつくってるのか全然わからなかった。

【荒木学芸員】　　こちらもそういった素材で、どういったものができるのかって何ら事前に情報が来なかったの。

【鉄矢会長】　　答えを教えちゃもったいないと思うのかな。

【荒木学芸員】　　それはありましたね。

【鉄矢会長】　　のぞいてる目の先にあるのがスクリーンで、向こうの映ったものがスクリーンに映って。

【中村学芸員】　　逆に反転して映って。

【鉄矢会長】　　映って、それをこっちの目でもう一回見るということになりますね。

【荒木学芸員】　　そうなんです。

【鉄矢会長】　　じゃあ後で見せてください。

【荒木学芸員】　　はい。

【鉄矢会長】　　ああ、そういうものなんだ、理解しました。

【荒木学芸員】　　最終日でしたので、その後、また展示場に行って、中にはこのスコープを使って作品をのぞいてみる人がいたり、不思議なものをさらに不思議なもので見るといふ。作品をより楽しまれていました。

展覧会に関連したワークショップは以上になります。

【鉄矢会長】　　はい、ありがとうございました。

【中村学芸員】　　もう一つその間のワークショップについて報告をさせていただきます。資料3をごらんください。

まず、最初に「おはなしのへや」という、前回は報告させていただいたんですが、10月19日に開催したものの2回目として11月9日、土曜日に開催いたしました。こちらのチラシと、あと3枚目が、『たまら・び』というけやき出版から出ている地域誌に「ことりのへや」の活動が載っておりますので、そちらを参考資料として付けさせていただきます。あとアンケートも4ページにつけておりますので、ぜひごらんください。

こちらの画面のほうなんですけれども、今回は2回目ということで、1回目よりも参加人数が多く27名の方が参加していただきました。大体親御さんも来ているので、子供さんは半分ぐらいの参加だったんですけれども、読み聞かせと言いながらこういった形で、パネルシアターとか、人形劇を行っていただいたりしました。あと今回は佐藤展の期間中に開催したので、こちらに今映っていらっしゃる平井さんという方が科学を使った遊びとか、おもちゃを紹介されている方で、講演会とかも開かれている方なんですけれども、平井さん自身がその磁石を使った佐藤慶次郎の作品にすごく感銘を受け、興味を持っていたので、せっかくだからこの「おはなしのへや」でも磁石でつくったおもちゃでみんなで遊ぼうということで、すごい強力な磁石を家から持ってきていただきました。この写真は子供たちが、すごく真剣に見ている様子です。あとこういう磁石の力というのを説明していただいたりとか。このスライドですと、オタマジヤクシ釣りというのをやっています。オタマジヤクシ1つ1つに磁石がついていて、釣り竿の磁石でくっつけて釣り上げて、みんな並べて、おれ40個とったとか言って競争し合っているという形です。これも平井さんがつくってきていただいて、こういうふう子供たちに見せて一緒に遊ぶという形でした。親の方にも一応その磁石のおもちゃを紹介する前に展覧会のことなども少しお話をさせていただいたので1回目よりも2回目のほうが、その後展覧会に行ってくださいの方もすごく多くて、ほんとう、これはいいコラボレーションができた会でした。今後また第3回と行う予定でありますので、いろいろとこういう企画をしていきたいなというふうに思いました。

「おはなしのへや」に関しては以上です。何かご質問があればよろしくお願いたします。

**【鉄矢会長】**　　すごくおもしろいと思いますけれども、オタマジヤクシって釣れるんですか。すごくおもしろいなと思っているのは、写真の一番左の子が、多分あれはルールを守って10匹ごとの塊にしてるんだろうなと思って。算数の授業にも、算数の思考にもとかな、数の思考もできておもしろいなと思ったんですけれども、ふっと我に返って、あれ、釣れるものなのかなって思って。

**【山村委員】**　　ザリガニは釣ってましたけどね。

**【鉄矢会長】**　　ザリガニは釣りましたね。ワカサギみたいな、小さくて数があるというのはおもしろいなってちょっと思いました。

**【中村学芸員】**　　そうですね。

【鉄矢会長】      ありがとうございました。

【中村学芸員】    続きまして、12月8日に開催しました、多目的講義室オープン記念ワークショップ第2弾の「水彩で富士山を描こう」です。講師は牟田いずみさんというアニメーション背景美術家の方を再び呼びして開催しました。当日は上田委員も参加していただいて、ほんとうにありがとうございました。

こちらは、資料のほうで、チラシが5枚目にありまして、6枚目から8枚目がアンケートになっております。すごくやはり今回競争率が高くて、定員20名ということだったんですけども、応募が28名ありまして、ちょっと残念ながら参加できない方もいました。やっぱり季節柄、ちょうど去年は富士山が世界遺産に認定されたこともありますし、今回お正月前だったので年賀状に使いたいという方も参加をされていました。年齢層もすごく幅広く、中学生以上からということではあったんですけども、70代の方まで参加していただいて、親子で参加という方もすごく多かったです。

富士山を実は牟田さんも今回初めて描いたというふうにおっしゃっていて、なので指導はすごく苦労されていたんですけども、見ていただいてわかるように、皆さんほんとうに写真と間違えるぐらいすごく上達されていました。写真の手前の方とかは、自分でアレンジして水に映る富士山を描いていたりとか、この3名の方も親子で参加されていて、牟田さんが指導していると、やっぱり、親子、皆さん色が似てますねという感想があったりとか、皆さん多分技術はまちまちだとは思いますが、それぞれ自分の富士山像というか、味のある富士山を描いていただいて、空のときよりも個性が出るテーマだったなというふうに感じております。実際に参加してくれた中学生は、年賀状を富士山の絵で美術館に送ってくれたりして、それを牟田先生に送ったらすごく喜んでくれて、かなり題材もよかったのかなというふうに思います。

写真のとおり、こういう感じで、皆さんすごく雰囲気が違うんですね。左上の方とかは油絵をされている方なので、水彩とはまた違うタッチだったり、色を入れたりという形で、あと白黒で挑戦されている方もいて、意外と空と雲のときよりも皆さん自由に描かれていたので、すごくおもしろいテーマでした。最後、やっぱり牟田先生と撮影を、一緒に写真を撮りたいという方々がいて、記念撮影会でワークショップは幕を閉じさせていただいた感じでした。

以上です。何かご質問等あれば。

【鉄矢会長】      ありがとうございました。上田委員参加していかがでしたか。

【上田委員】 とても楽しかったです。ちょっとしたアドバイスとか、こつを教えてくれるんですけども、そのことによってものすごくきれいに描けて、自分がすごく絵がうまいような。

【鉄矢会長】 もともとうまかったんじゃないですか。

【上田委員】 それで盛り上がり、さらに浮き浮き描いていけて、みんなすごく楽しそうに。

【山村委員】 ちょっとしたこつってどういう。

【上田委員】 ずるに近いかもしれないんですけども、下絵を、稜線が描いてあるのを渡してくれるんですね。結構富士山ってその角度だったり稜線だったりすごく富士山ぼくなっていて、それを守ることでみんな富士山が描けるんですね。それはアニメーションのときの空の描き方であるとか、色の動き方であるとか、まず何色かで塗り分けた後、細部を塗っていくこととかをアドバイスしてくださるんですけども、それを守っていくと見る見るうちにすてきな絵になっていくんですよ。それでいて細部で、さっき報告にもあったように、個性も出せるということで、すごく楽しかったです。うまく描けると楽しいです。

【山村委員】 絵は下図があつて。

【上田委員】 そうです。

【山村委員】 入力線が一応あつて、色の置き方はもうある程度決めて。

【中村学芸員】 そうですよ。

【上田委員】 最初に薄い鉛筆の線だけなんですけれども、それがもう絶妙で。

【鉄矢会長】 それに何か塗り方も、最初水をしっとり紙を全部。

【中村学芸員】 そうです。紙を全部濡らして。

【鉄矢会長】 全部紙を保水させて、それから空をグラデーションを塗ってという形で。

【山村委員】 じゃあまあそれぞれ個性はあるけれども、進め方は同じ。

【中村学芸員】 はい、アニメーション背景を描くときの描き方を習って。

【鉄矢会長】 絵がうまくないと思っている人は輪郭がとれないというのが大体多いんですね。輪郭がとれないということが似てないにつながることで、輪郭がそんなに簡単なものだと結構みんなうまく描けるってあるんですね。

【中村学芸員】 そうですね、下絵があつたのでより多分皆さんやりやすかったのかなと思います。

【鉄矢会長】 僕らはよく球体を描かせるんですよ。球体を最初にコンパスみたいなので薄く描いて球体を描かせるとみんなちゃんと球が描けて、こんなにうまく、自分、レッスンの授業で、鉛筆のグラデーションの勉強をさせるのに、ただ球体を描けてやって影をどうやるかってみんな一生懸命やって、あれをフリーハンドで描かせると球が描けないからみんな下手な気がする。

【中村学芸員】 そこで挫折しちゃうんですね。

【山村委員】 それでも随分個性って。

【中村学芸員】 出ますよね。同じ下絵なんですけれども。

【山村委員】 形は同じようでも違うんだよね。

【上田委員】 基本の絵の具は3色。

【中村学芸員】 そうです。同じ3色。

【山村委員】 何か見た角度もみんなそれぞれ微妙に違う気がする。

【中村学芸員】 そうですね。影の多分つけ方でポイントをとってるところが人それぞれ、変わってるんですかね。続きますよ、よろしいですか。あと資料4のほうで、「タマのカーニバル」のワークショップの資料があるんですが、こちらに関しては、続きの今後の開催予定の展覧会ワークショップと一緒に報告させていただきたいと思うんですが、こちら、事業報告が資料5になります。こちら、一連の行事、「タマのカーニバル」という企画になりますので、続けて説明をさせていただければと思います。

こちらが1月中に、こちらの休館期間に「タマのカーニバル」のワークショップが全部で4回ありまして、今回皆様にチラシをお配りさせていただいたんですけれども、1つが2月に行われるカーニバルのチラシと、もう一つがこの美術館で行われる展示のチラシです。

今画像でお見せしているのが、そのカーニバルへ向けた仮面と衣装づくりのワークショップの画像になります。これが1月11日と18日に行われました。スライドにあるように、みんな子どもたちが自分の好きな動物であったりとか、今その後ろにあるのも子どもたちがつくった仮面なんですけれども、こういったものをつくりました。こういう動物だったりとか、みんなでおそろいのもをつくったりして、これをカーニバルのときにみんな装着してまちを歩くという形なんですけれども、こういったちょっと凝っているものだったりとか、「戦後」という、これは美術館のポスターロゴが使われた方がいて、「戦後」のところを切り抜いて仮面に使っている方がいて、こういうユニークなものもありま

す。動物だけじゃなくてほんとうにコラージュみたいなことをされて仮面、帽子のようなものをつくっています。

これが18日のワークショップですけれども、仮面をつくった後は衣装をまた1日かけてつくりました。衣装も自分たちで着ない古着とかを持ってきて、いろいろテープをつけたりとか切ったり何なり張りつけたりというのをして衣装をみんなで作っていくというワークショップでした。これも衣装も一緒に当日カーニバルのときに着て回るということで、そちらにある段ボールの塊でポストのものとかも着る、着ると多分ポストになるというものだと思うんですけれども、そういう、いろいろなものを自由につくってみました。特にテーマがないので。衣装を着て、少しパフォーマンスの練習をしてという形で、1階の展示室で歌を歌ったり踊ったりという形で。

続きまして、もう一つのワークショップです。小金井市の文化財センターの多田学芸員に館に来ていただいて、小金井市のお話をさせていただきました。どういう話かというと、昔小金井市がどういう場所だったかとか、どういったものがあるかというお話をさせていただきました。みんな夏からこの美術館にはワークショップで通ってきていただいて、ほかの市からも来ていただいているんですけれども、ここの美術館付近が昔、中山谷遺跡という縄文土器がとれる遺跡だという話を多田先生から聞いて、やっぱりみんなそれは知らない子たちのほうが多くて、すごく驚いていて、いろいろほんとうに戦後のお話とかもお話しいただいたんですけれども、最終的には縄文まで振り返ってお話を聞くという会でした。そのお話を聞いた後に、スライドで載せているのがちょうどほんとうにここの中山谷遺跡の写真です。こういったものを説明してもらって、どういったものが、どういった土器が見つかったかという話もさせていただきました。

その後にみんなで実際に、土器ではないんですけれども、土偶をつくりました。アートのスタッフの方で家に窯がある方がいらっしゃって、粘土でこういった形で子供たちがつくってそれを焼いて、今度の「タマのカーニバル」で少しこれもあわせて展示をする形になっております。こういった動物のようなものだったり、結構みんな子供の発想でつくっていただいているので結構自由なものになったようなんですけれども。こんな感じで実際こういう縄文でもないんですけれども、縄で跡をつけたりという形でつくっている様子です。

ワークショップの写真は以上ですけれども、あと今後の開催予定のほうに入らせていただきます。資料5のほうにありますように、2月9日、今週末にそのカーニバルに向け

たパフォーマンスの練習を下の1階でワークショップで行います。そうしまして、先ほどのチラシの「タマのカーニヴァル」の本番が2月22日、23日というふうで開催されます。

【鉄矢会長】これは美術館としてどのように関わっているのかが、チラシを見ても良く分からないけど。主催はアートフルアクション。

【中村学芸員】アートフルアクションは事業の委託先で、主催は小金井市を含んだ五市で、美術館も小金井市の中に入っているんで、実際は、企画や制作に携わっています。

【鉄矢会長】本当は、企画や制作のところに学芸員や美術館の名前が入ると分かりやすいですね。これはギャラリーのような場所貸しではなくて、企画段階から美術館の学芸員が関わっているということで、今後の美術館の考え方に対して誤解されないようにしないといけないと思います。

【山村委員】ロゴも変わってしまっているし。

【荒木学芸員】ロゴは裏面に入れてあります。チラシの表はデザインの関係でそのような字体になっていますが。

【鉄矢会長】タマのカーニヴァルのチラシの方は、美術館はどこに出てくるのかなと思って見ていたんですが、最後に「場所、はけの森美術館」と場所としか書いてないのは。これでは誤解されてしまう心配がありますね。

【荒木学芸員】それについては、色々話し合ったのですが、小金井市の中に美術館も入っているんで、小金井市主催いわく美術館も主催しているという整理となりました。

【鉄矢会長】今からでも例えばホームページで美術館が主であることをわかるようにするとかどうですかね。

【山村委員】そのような事情であれば、美術館としてのチラシを別に作るとか、そういう方法も他でもありますね。

【中村学芸員】タマのカーニヴァルのコンセプト自体が、ここが昔、中山谷であったことなど、ここでないとという理由付けはきちんとしています。

【鉄矢会長】それでも、例えばディレクターという方々は、そういったコンセプトを作るのに長けているので、ここでなければいけないような企画を持ち込んでくることはいくらでもあり得るので、美術館として制作段階から関わっているのであれば、それがわかるような見せ方、企画を持ち込まれて場所を貸すのではなく、美術館も企画の中に入っている展覧会であることが分かるような見せ方が必要だと思います。

次の説明をお願いします。

【中村学芸員】 それでは、その次の事業の予定について説明させていただきます。タマのカーニバルはけの森展の間に、3月19日に、第3回のおはなしのへやを開催いたします。今回は試験的に平日に行おうと思っておりますが、初めての平日ということもあり、内容については、これから詰めていく予定です。

資料の4頁目、3月29日から6月1日まで所蔵作品展「日々の花々」を開催します。関連企画としましては、光風会が4月で100回展を開催することにちなんで、研一の光風会出展作品などの小特集と、おはなしのへやを2回、5月3日には、「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュで作る花便り」を開催予定です。展覧会のチラシがまだできていないので、本日お見せできませんが、皆さんもぜひお越しいただければと思います。

【鉄矢会長】 何かご質問等ありましたらお願いします。

【山村委員】 学芸大学の協力の内容は。

【荒木学芸員】 チラシのデザインです。

【鉄矢会長】 私のところとは違うところです。おはなしのへやについては、これもタマのカーニバルと同じ話なんですけど、美術館の方でこういうことをやってくださいということ、内容を決めたりしているんですか。

【中村学芸員】 事前に打ち合わせなどを行っていて、今回は、佐藤展の時は、磁石が関係しているので、今回は科学の要素もあるので展覧会に関係するような内容について、やってみようよう打ち合わせを行っています。

【鉄矢会長】 美術館が主催しているというところが、いまいち報告を聞いてもわかりづらかったんで、先にそのような話をしてもらえると良いと思います。事前に美術館の学芸員が内容について、相手と話し合っていて決めているということであれば。

【山村委員】 名前も「おはなしのへや」だけだと、美術館主体というのがわかりづらいですね。

【村澤委員】 ここにあるのは絵本ですよ。絵本を使ってやるということで、「絵本から始まるアート」とか。

【鉄矢会長】 いいですね。

【村澤委員】 今回、日々の花々なら例えば花の絵とかになるのでしょうかね。

【平岡委員】 おはなしのへやは今年度はまだ試行的にやっていて、今後、そういったこと

も考えながら、やっていけたらいいのではないかと思います。展覧会にあわせたテーマを先方と考え、毎回サブタイトルを変えるとか、そういうことも検討材料にしていただければいいのではないかと思います。

**【鉄矢会長】** それでは、次の平成26年度の事業予定について、説明をお願いします。

**【荒木学芸員】** 平成26年度は、まず、今年度の展覧会が6月1日までありまして、その後、ワークショップを開催する予定です。内容についてはこれからです。

その後、「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵作品による猪熊弦一郎展」を7月19日から9月7日まで開催する予定です。今年の佐藤慶次郎展と同じく巡回展で、先に広島県熊野町筆の里工房、熊野筆で有名な熊野町ですが、そこで開催したのち、夏休み期間に当館の方で開催します。今回は当館が事務局館ですので、館長が実行委員長となり、開会式なども行われます。サブタイトルの「どんなことをしても僕なんだ」は既に実行委員会で決定しているものです。関連事業としては、ギャラリートーク、ワークショップ。猪熊は絵本とのかかわりが深い画家なので、絵本にちなんだ読み聞かせ会など。また当館では夏休み企画として模写を行っていますが、それも実行委員会で認められたので、同じように行う予定です。

その後、詳細未定ですが、所蔵作品展を会期中に一部の作品の展示替えを行うことで、10月から12月初旬と、12月中旬から2月初旬まで、初の試みですが、そのように行いたいと思います。

その後、3月下旬から、企画展「生誕120年 河野通勢と中村研一」ということで、後世を小金井市で過ごした河野通勢が研一と同年で、来年で生誕120年を迎えるということ、研一も後世を小金井市で過ごした画家なので、このような形での開催を予定しています。

**【鉄矢会長】** ワークショップは1回だけですか。

**【荒木学芸員】** 展覧会の関連ワークショップと単独とがありますが、内容・時期などについても、これからとなります。

**【村澤委員】** 所蔵作品展を一部展示替えをして2つに分けるということですが、入場料の割引などは考えていますか。

**【荒木学芸員】** 条例では割引という制度が無いので。

**【村澤委員】** 一部展示替えをするということですが、同じ展覧会で、またお金を払って入ったときに、同じ展示があるということだとどうでしょうか。

【鉄矢会長】確かに同じ展覧会なので、そういうお話もありますね。

【中村学芸員】割引が難しければ、スタンプなどで特典を付けるとか。

【荒木学芸員】条例では割引という制度が無いですが、そういうことは可能かもしれません。

【平岡委員】初の試みでもありますので、そういうご意見も参考に何ができるか、どういう方法がいいかを検討していくこととなるのではないかと思います。

【鉄矢会長】それでは、次の平成26年度予算について、説明をお願いします。

【吉川係長】平成26年度の予算については、概ね例年通りの予算の規模で議会に提案する予定となっております。何かご質問がありましたらお願いします。

【鉄矢会長】特にないようですので、それでは、私たちの任期も今年度一杯ということで、総括といたしますか、誰からいきましようかね。それでは村澤委員、お願いします。

【村澤委員】最初に委員になった時は、よくわからず戸惑ったりもありましたが、参加させていただいて、色々と勉強させていただきました。今後ともはけの森美術館がより良いものとなりますよう、よろしくをお願いします。

【鉄矢会長】ありがとうございました。では、上田委員。

【上田委員】最初はお客さんの気分で参加させていただきましたが、子どもがおりますので、親子の視点で参加させていただきました。その後子どもも成長しまして、改めて自分自身の視点に立って、今後もこの美術館を良くしていければと思いますので、今後ともよろしくをお願いします。

【鉄矢会長】山村委員。

【山村委員】最初に参加させていただいた時に、色々と資料もいただき、参考にさせていただきました。会議の中でも職員の身分について学芸員が非常勤での配置であるとか、美術館として、継続していく上での問題があったりして、長期的な展望というか、館としてどうしていくということが中々難しい環境の中であると思っておりますが、この多目的講義室もできて、ワークショップなども開催され、小さい美術館としての可能性が広がったと思っております。

【鉄矢会長】では最後に私の方から、山村委員からあったように、学芸員が非常勤であることなどの状況ではけの森美術館がやってこれたのは、薩摩先生や、職員の皆さん、そして学芸員の気概というか、そういうところがあるのかなと思っております。それもありましたが、この間にこの多目的講義室ができ、ワークショップが開催されて、参加した

方がみんな喜んでという話を聞くと、とてもうれしく思ったりして、これからはけの森美術館をどうしていくんだろうということについて、まだはっきりとした方向性が出ていないということもありますが、例えば、庭にしても、庭はみんながハッピーになるためにあるもので、高校生のボランティアなど、最近は行くところが少ないという話もあったりして、どの木を切るとか切らないとか、研一がいた頃の庭でなければいけないんだというのがいいのか、それも一つの方向性だとは思いますが、そういったことも含めて、これからはけの森美術館をどうしていくかについてはこれからの課題でもあると思っています。

それでは最後にその他ということで、事務局から何かありましたらお願いします。

**【荒木学芸員】** 会議録についての連絡ですが、今年度、会議録の作業が遅れており、皆様には大変、ご迷惑をおかけしております。第1回目の会議録について、皆様に校正をお送りし、確認をお願いしているところでございます。確認終了次第、確定し、ホームページ等の掲載させていただく予定です。なお、2回目以降の会議録についても、順次進めさせていただきますので、お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

**【鉄矢会長】** それでは、会議録については後日、確認が来るということで、よろしくお願いいたします。以上で、本日の運営協議会は終了いたします。お疲れ様でした。